

# 予防接種について

## 《 B型肝炎 》

### B型肝炎とは？

B型肝炎ウイルス(HBウイルス)の感染を受けると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓内部に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。感染はHBウイルス(HBs抗原)陽性の母親から生まれた新生児、HBウイルス陽性の血液、体液に直接接触したような場合、HBウイルス陽性者との性的接触などで生じます。ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力(免疫)ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

### B型肝炎ワクチン

B型肝炎ワクチンによる予防は、ことに小児の場合は肝炎の予防というよりウイルスの持続感染を防ぎ、将来発生するかもしれない慢性肝炎・肝硬変・肝がんを防ごうとすることが最大の目的です。

**1歳の誕生日の前日までに3回接種します。**27日以上の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1回接種します。標準的には生後2か月に達した時から生後9か月に至るまでの期間に接種を行います。(生後2か月以降に1回目、生後3か月に2回目、生後7～8か月に3回目の接種を行います)

※母子感染予防としてB型肝炎ワクチンを受けたお子さんは、定期予防接種の対象とはなりません。

### 副反応

主なものは、倦怠感や頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等があります。一般的には重大なものは認められませんが、極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。